

新潟を離れて

佐久間 勝 治*

平成14年4月に東京本社より新潟の北陸支店に転勤してから5年間を過ごし、今年4月に再び東京に戻りました。今年4月には、新潟市が本州日本海側では初めての政令指定都市となりました。私は平成元年から5年間仙台に勤務しましたが、偶然にも元年は仙台市が政令指定都市になった年でした。事務局より「新潟を離れて」の原稿依頼がありましたので、一文をしたためます。

新潟への転勤と新潟応用地質研究会

北陸支店では、主に新潟県内と富山県内の調査業務に携わることとなりました。新潟転勤を契機として新潟応用地質研究会に入会し、前任者を継いで幹事を務めました。他の幹事の皆様および会員諸氏との交流や研究会誌を通じ、地質だけにとどまらず、新潟の郷土文化や郷土誌に至るまで様々な面を教えて頂きました。短い期間でしたが、充実した良き思い出にできたことを感謝いたします。

新潟にて

北陸では初めての勤務でしたが、積雪など関東との気候の違いを除けば、新潟は食物も新鮮でおいしく、暮らしに便利で住みやすい町でした。

新潟転勤から2年半が経って中越地震と遭遇しました。他の地質関係の皆様と同様、災害復旧の業務に新潟を離れるまで係わることとなり、私は小千谷市や長岡市（特に旧山古志村）周辺の災害復旧業務に携わりました。山古志村はもともと棚田や養鯉池など、風光明媚でのどかな中山間地ですが、震災後初めて村に立ち入ったときは、震災の爪痕も生々しいものがありました。新潟離任の頃には随分と災害復旧工事も進み、今後は元のように平穏な暮らしが戻ることを祈るばかりです。

東京に戻って

新潟へは単身赴任だったので、東京では昔の生活に戻ったことになります。新潟転勤中に日本道路公団や日本鉄道建設公団などの再編があり、これら事務所や職員も東京を離れた時点とはガラッと変わっていました。また、都心や臨海地区を中心に再開発がすすみ、新しい高層ビル群が林立し、私はその中を右往左往している状態がありました（東京の喧騒と人混みの多さに慣れるにも、少々時間を要しました）。

今後は、新潟応用地質研究会誌などを通じ、研究会の活動にふれることを楽しみにしています。さらに、新潟訪問の機会があれば、またの交流をよろしく願います。最後になりましたが、新潟応用地質研究会の発展と会員の皆様のご活躍を祈念いたします。

*日本物理探鉱株式会社